

田原小だより



第683号

令和4年5月31日

台東区立田原小学校

校長 佐藤 貴生

自己肯定感を高める

校長 佐藤 貴生

木々の緑が一層濃さを増し、衣替えの季節となりました。1年生が植えたあさがおもすくすく育っています。五月は、雨の日が多く、湿気の多い日が続きましたが、その中でも子供たちは感染防止による制限のある生活様式の中で、元気いっぱい生活しています。いつも6年生が『田原小学校のリーダー』としてお手本となっています。傘の入れ方、靴箱に靴を揃えること、そしてどのクラスも椅子をきちんと入れ、机をまっすぐに揃え下校し、翌朝、気持ちよくスタートすることができます。長年培ったよい生活習慣を今後も継続していきます。

5月26日（木）から28日（土）まで、5年霧ヶ峰移動教室を実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で5年生にとっては初めての宿泊学習です。5年生全員が参加することができ、雨天の時もありましたが、一人一人がめあてをもって役割を果たし、発熱した児童も出ず、楽しく充実した3日間となりました。鷹山ファミリー牧場での乳しぼり、貸し切り状態の車山山頂の見学、八島ヶ原湿原でのグループ散策、丸井伊藤商店での味噌づくり等を体験し、夜は満天の星の下でキャンプファイヤーも行うことができました。そして何より友達と寝食を共にすること、テレビもゲームのない生活、地域に生息する動植物や地形の観察など、普段は味わえない時間を過ごすことができました。今回の移動教室を終えて、改めて宿泊行事の重要性をとて感じました。5年生保護者の皆様には、健康管理・荷物準備等、ご協力いただき、ありがとうございました。8月の4年生・6年生の宿泊行事もぜひ予定通り実施できることを望みます。

今年度本校は、子供たちの自己肯定感の向上に取り組んでいます。様々な調査から、小学生の自己肯定感は、学年が進むにつれて低下し、6年生の時が最も低い傾向にあるようです。自己肯定感が思春期に低下することをふまえ、低学年から中学年くらいまでしっかり高めていくことと高学年では低下させないことに努めなければなりません。また小学生の場合は特に、自己有用感を感じさせることで自己肯定感を高めることが有効だそうです。自己有用感とは、自分が誰かの役に立っているという感覚のことです。これは自分一人では得られません。例えば、家族の手伝いで「ありがとう」と言われたり、進んで掃除をして褒められたりするなど誰かの役に立ったプラスの事実に対して、ポジティブな声かけをすることで自己有用感が高まります。「自分は役に立つ。」と感じられるようになるためには、役割を与え、その結果を評価することが大切です。今回の霧ヶ峰移動教室でもすべての5年生児童が係を任せ、みんなの役に立つ仕事に取り組んでいました。引率の教員もタイミングよくポジティブな声かけをするよう努めました。少しは、子供たちの自己有用感が高まったと信じています。

今後も学校では、行事やバンド・フラッグ、学級の当番・係活動、対話的な学習や協同的な学習を進めることで、子供たちの自己肯定感を高めていきます。

◆◆◆生活指導部より◆◆◆

生活指導部 高橋 浩之

5月の生活目標は「気持ちの良い挨拶と返事をしよう」でした。朝、進んで元気よく挨拶をする児童が増えてきました。これからも「気持ちの良い挨拶」ができるよう声をかけていき、明るい挨拶で溢れる小学校を目指していきたいと思えます。

6月の生活目標は「身のまわりを整え、気持ちのよい生活を送ろう」です。みんなで使うもの（掃除道具、遊び道具など）を決められた場所に片づけることや机やロッカーの中を整理整頓し、忘れ物や失くしものがないよう物を管理することを目標に声をかけていきます。ご家庭でも、「整理整頓するメリット」についてお話をしていただけたらと思います。

また、気温と湿度が上がり、汗をかきやすい季節となります。体育袋の中に汗拭きタオルを入れておくようご準備よろしくお願ひします。